

音更新火葬場 第2回ワークショップ報告

「音更新火葬場」設計では、ワークショップ方式により、様々な立場の方々の意見をできるだけ多く取り入れ、議論検討し、建築計画に反映させたいと考えています。ワークショップにご参加いただく音更新火葬場のワークショップアドバイザーの方々と、音更新町の「新たな火葬場」のあり方をともに考え、つくりあげていきたいと思っております。

ワークショップ概要

□実施日時 2011年4月1日(金)
□時間 18:00~20:00
□場所 音更新町文化センター
□参加者 ワorkshopアドバイザー 28名

前回アンケートでは、「音更新の新しい火葬場に求めるイメージ」に対し「明るい」「開放的な」「緑豊かな」という意見が多くあげられました。第2回ワークショップでは、周囲からの火葬場全体の見え方から考えるグループと、内部空間のイメージから考えるグループに別れ、様々な方向からそれらの具体的なイメージについて意見交換を行いました。

◆ 近隣住民の方々からの意見

火葬場に対して

・火葬場自体は、生まれた時からそこにあるものとして認識している。自分たちにとっては当たり前であり気にはならない。しかし、お嫁さんなどよそから来た人にとっては、やはり直視できない存在。

困っていることと要望

- ・畑仕事をしているとき、参列者の人たちにずっとみられているのは不愉快（バンダになった気分）。
- ・霊柩車、バスが見えるのは、火葬していると感じ、良い気がしない。
- ・待っている参列者が退屈しないような仕組みに（子供たちが道路に出て遊んだりしなくてよいように）。
- ・建物の存在を感じさせないよう、樹木で囲うなどしてほしい（現在は少ない）。
- ・木が鬱蒼としても気味が悪く感じる。

葬儀場からのルートについて

- ・家族葬や密葬も含めると、朝早くから5~6台の乗用車が連なってくる。
- ・現在のルートでは危ない→大回りしてでも大きな道路を通ってほしい。
- ・霊柩車、バスがいつも同じ通り道をつかっているように思う。月代わりにするなど考えてほしい。

◆ 外からのイメージ

周囲からの見え方、景色・植栽について

- ・密すぎず、かつ目隠しはしっかり。閉鎖的すぎるのもだめ。
- ・隠すところは隠すよう木を植えなくてはならないのでは。
- ・内部がみえないような工夫が必要。樹々等。
- ・暗い樹はイメージがよくない。
- ・常緑の森ではなくて、花の付く木や紅葉のきれいな木で音更新らしさをつくる。樹木でいっぱいではなくってバランス良く。
- ・芝生にして芝を刈るよりも森にしてほとんど管理無しの方が楽ということもできる。
- ・十勝の風景とは、四季がはっきりしていること。
- ・心に残るものになるためには、季節感が大切。
- ・緑のなくなった冬の雰囲気づくりが考えどころ。

外観について

- ・周辺とマッチしたデザイン、色、素材。
- ・外壁は年数にたえるものを、汚く見えないよう。
- ・格式の高い外観がよい。敷地が周りの畑より高い位置になっているとか。

◆ 音更新しさとは？

- ・ふるさとの風景。外から戻ってきた人が感じる、音更新らしい植生。
- ・畑の風景が広がる真ん中にあることが音更新らしい。
- ・音更新らしい日高山脈や畑の風景、大きな空が見えることが音更新しさ。
- ・「音更新しさ」というものが必要なのか？
- ・「ソフト面も含めて十分なお別れが出来る場所であること」=「そのように故人をしっかりと見送れる素敵な場所が音更新なのだ」といことになるのでは。

◆ その他の意見

- ・子どもの社会見学（命の教育）。自慢できる施設にすることは子どもにとっても近隣の人にとっても良いこと。
- ・お花畑、植栽管理などの民間組織（ボランティア）を育成し、住民との交流の場をつくりイメージを変えていく。
- ・特別な場所ではなく日常的に町民が訪れる場所になったらよい。
- ・「火葬場」というネーミングがよくない。道の途中に「火葬場」の看板があるが、良い感じがしない。新たなネーミングを考える、募集する。

◆ 内部について

「明るい」とは？

- ・自然な雰囲気、自然光、自然の素材が「明るさ」につながる。
- ・自然に近い色調が気持ちの「明るさ」に。
- ・全体が暗く、光が効果的に差し込む「弘前」の色や空間のイメージではない。
- ・帰る時の晴れ晴れとしたところが明るいといよい。
- ・花々や木々の花、緑、紅葉での明るさ。

アプローチ・エントランスホール

- ・花々が出迎える、十勝らしい風景を見ながらのアプローチ。
- ・雪や雨への配慮が欲しい。
- ・着いた時の心情、心の整理のため、車を降りてから距離をとって歩かせるのがよい。
- ・入口と出口を別につくる。（着いた時と帰る時の心情には変化があるので）入るところで見える風景、出ていくところで見せる風景は違うのがよい。
- ・着いてほっとする空間がよい。（エントランスホール）
- ・オブジェが並んでいたり。（エントランスホール）

告別・見送り・収骨

- ・明るい色使いがよい。
- ・自然光の明るさ。
- ・音更新らしい風景が見える。
- ・土に返るイメージ。
- ・各場面それぞれにふさわしい光。
- ・個室のプライバシーが重要。
- ・炉の前にしばらくいる人もいる。
- ・人数により、室の大きさを変えられるといい。
- ・時間を気にせず心ゆくまでお別れができるのがよい。
- ・札幌のような炉がいっぱい並んでいるのは気持ち悪い。
- ・炉に入る前と後では気持ちががちがうので、部屋も違う方がよい。空間に変化があって良い。

待ち時間について

- ・外の景色が見えるなど、心落ち着く雰囲気がよい。
- ・外に出て散歩できる。
- ・冬の風景がさみしくないようにしたい。
- ・冬の温室のような場があるとよい。
- ・大きくひとつつながりの空間では人がゆっくりしにくい（柱の陰にいたいなど）。
- ・故人との関係によって、心情は違うので、自分の居場所は自分で選べるのがよい。
- ・くつろぎ方はそれぞれなので、オープンな場所、椅子、タタミの部屋など選択肢がほしい。
- ・逃げ場として、ひと息の場所として、花や水があるとよい。
- ・喫煙場所をきちんと考えてほしい、外でたむろしている姿はみっともない。
- ・歴史の年表などは良いと思う。
- ・待合室の他にギャラリーのような広い空間。
- ・外にテーマ性のあるオブジェ。
- ・おむつ換え、授乳コーナーもあったらよい。



次回のワークショップ

□実施日時 2011年4月22日(金)
□時間 18:00~20:00
□場所 共栄コメン

今回の第3回ワークショップでは、諸室の組立の異なる火葬場を紹介しながら、音更新にふさわしい新たな火葬場の形についてご意見、ご要望をいただきたいと考えております。